

## 古河電気工業(株) アナリスト・機関投資家向けテレカンファレンス 質疑応答録 (要旨)

日時：2019年5月14日(火) 18:10-19:10

内容：2018年度決算

説明者：執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長 福永 彰宏

Q：2018年度予想との差異について。光ファイバ・光ケーブルの競争激化の影響はどの地域にでているか？

A：中国の市場環境の悪化に端を発し、光ファイバ・光ケーブル需要環境が厳しくなっている。ファイバが中国から東南アジア、欧州に出てきている。調査会社のデータによると、価格が4~5割落ちている地域もある。当社も東南アジア向けのQ4ファイバ出荷数量はQ3比で約4割減少。中国拠点のプリフォーム販売も減少している。

一方で、北米は回復傾向にあり、Q4はQ3比で2割程度増加、欧州も同様。ただし、欧州は価格下落により大幅に利益は伸びていない。中南米は好調で、2019年度も続くと思っている。

2019年度は、光ファイバ全体の出荷数量は10%強の伸び。北米、欧州ともに3割程度の増加は見込める。ただし、北米の他企業が中国向け出荷を減らし北米向け出荷を増やすことなどで、北米内での競争も進んでくる可能性はある。東南アジアでは、数量はある程度伸びるが、価格が厳しい。中南米は好調。光ケーブルについても、北米は回復傾向にあり、2017年度上期レベルまで数量は戻ってくると思う。また、モロッコ拠点は19年度には黒字化できるだろう。

また、4月にグループ変革本部を立ち上げて、生産性の向上や、原価改善の具体的な施策をグローバルで進めている。2019年度後半からは、その効果が出てくると見込んでいる。

Q：機能製品は何が下振れしているか？

A：2018年度Q4については、エレクトロニクス、データセンタ向けで、4事業ともに市場減速の影響を直接受けている。

Q：2019年度の光ファイバの数量の伸びをもう一度確認したい。グローバルでは10%強の伸びになるか？

A：2017年度から2018年度にかけては3%程度の伸びとなったが、2019年度は13から15%の間くらいの伸びになると見ている。地域別では、北米は2-3割、欧州は3割強、アジアは若干の伸びを想定している。

北米の構成比が半分から6割程度に近く見通し。

Q：北米のケーブルの受注状況について教えてほしい。

A：RBOC等からの引合いが実需として出てきており、受注は好調だった2年前の水準に戻ってきている。しっかりとものづくりを行っていく。

Q：機能製品は2019年度さほど利益が減らない見通しだが、製品毎にどう見ているか？

A：それぞれ濃淡があること、また、利益率の異なる製品が含まれているため詳細には語れないが、売上は減るが利益率が上がると見ている。半導体テープの競争環境は2018年度とあまり変わらないが、半導体市況の落ちこみにより、2019年度後半からの市況の戻りを予想。サーマル電子部品は、データセンタの影響を大きく受けるが、各社が独自のCPUを調達する中で受注の変動が激しく、状況が見えるのはQ3に入ってからとみている。メモリーディスク、銅箔についても厳しい環境が続くが、お客様に価値を認めていただける製品に注力していく。

Q：2019年度利益の上期・下期の構成比イメージは？

A：電力事業の年度末偏重や、情報通信および機能製品は下期の改善を大きくみていることから、営業利益は上期<下期となる見通し。また、特損関係はリスクも含め主に下期に織り込んでいるが、（上記営業利益の要因により）純利益も上期<下期となる見込み。

Q：エネルギーインフラのQ4営業利益12億円のうち一過性要因は？2019年度の営業利益予想は0とのことだが、上積みは可能か？

A：Q4利益のうち10億円程度が複数のスポット受注によるもの。お客様の信頼で受注が入り、生産・原価改善が進むという好循環の状況。少しでもプラスになれば良いと考えている。

Q：光部品の伸び率は？

A：2018年度は数量で25%の減、2019年度は1.5倍を見込んでいる。

Q：設備投資などの固定費増があるなか、配当も含めたキャッシュフローのバランスをどう考えているか？

A：2019年度の設備投資は前年比20億円の減。2019年度のFCFは2018年度に特損計上した製品補償引当金の支払いを見込み若干のマイナス見込みだが、2018年度のFCFは+154億円。2018-20年度累計FCF予想100~150億円に対し、計画通りの状況。

Q：光ファイバ・ケーブル事業について、北米の需要の戻りとはどの分野か？

A：OTTや通信キャリアなど。またCATV関係の受注もある。

Q：光部品は需給が逼迫している模様。2019年度の増益貢献度は？

A：受注は好調、しっかりものづくりをして対応していく。光ファイバ・ケーブル事業ほどではないが、ある程度の増益を見込んでいる。

以上